

農業後継者育成基金事業

令和元年度（平成 31 年度）農高・農大就農促進対策事業（農高就農促進対策助成）

事業主体名 鹿児島県立鹿屋農業高等学校

1 目的

農業後継者の育成を推進するために啓発活動及び視察研修を行う。1 年生は営農講座（年 3 回）や農業大学校，農業開発センター等の視察研修（年 2 回）を実施する。2 年生は農家委託実習（7 泊 8 日）を行う。3 年生は就農志向者研修や営農の門出を励ます会を実施する。

さらに，耕種部門は，植物の栽培管理や経営の基礎を学習するとともに，生産から流通までの 6 次産業化や G A P 認証取得に向けた取組を応用として学ぶ。畜産部門では，家畜の飼育管理を学習し，畜産共進会や一昨年度から開催されている全国和牛甲子園への出品・参加を行い，肉質向上や優良生産者育成に努める。

2 実施状況

(1) 視察研修（1 年生）の実施

本県の農業の実態や農政の現状について 1 年次より理解を深め，農業経営者育成のために毎年実施している。自営学科 1 年（義務入寮生）を対象に，県立農業大学校，県農業総合開発センター，大隅加工技術研修センター等の視察を行った。進路活動に向け具体的な目標を掲げるとともに，地域農業の実態について理解を深める良い機会となった。



(2) 農家委託実習（2 年生）の実施

総合実習の一環として，自営者養成学科（3 学科）の生徒が 7 泊 8 日の日程で実施した。地元農家の協力で実践的な農業を学ぶとともに，生活習慣の見直しやコミュニケーション力の向上を図る。本事業を境に，生徒の農業に対する意識の変化や知識・技術の向上等が随所に見られ，農業経営者育成の観点からも大きな効果が得られている。



(3) 就農志向者研修，営農の門出を励ます会（3 年生）の実施

農業大学校進学者をはじめ，農業関連の進路決定者を対象に実施している。就農志向者研修は，県内各地の優良農家等を視察し将来の農業経営の指針とする。営農の門出を励ます会は，卒業生の農業に対する意識向上を図るとともに 1・2 年生に向けエールを送る。



3 今後の課題，取り組み

今年度は 30 名の卒業生が農業大学校や 4 年制大学農学部への進学，農業関連企業へ就職した。非農家出身の生徒が増加しているが，就農促進事業や後継者育成対策事業を通して農業に対する理解を深め，就農に向けた意識向上や準備を図るの一助とし，さらなる進路実績につなげたい。また，今年度実施できなかった農業法人研修やスマート農業講習会等の計画を進めていきたいと思う。